

合併から5年 ふるさと三原へ寄せる それぞれの思い



平成11年から続いた「平成の大合併」。全国の自治体は約3,200から1,700余りになり、広島県も86市町村から23市町へと再編されました。三原市も平成17年3月22日に1市3町が合併し、新生三原市としてスタートしました。

合併から5年を迎える今、この特集では、それぞれの地域で暮らす、三原を支える市民の皆さんの思いや夢を伝えます。



明石素子さん(14)本郷町
地域の人が優しく、いつも明るく声を掛けてくれるので、私は三原が好きです。将来はこのまちで医療系の仕事に就きたいです。



奥村雅彦さん(51)浩子さん(49)久井町
久井町は昔、牛市で大変にぎわった地域です。三原の和牛をもっとPRし、地域の活性化に役立ててほしいです。



八坂拓美さん(20)皆実五丁目
4月から料理の勉強のため、東京に行きます。三原は、自分にとって一番ほっとできる場所。三原での思い出を胸に頑張ります。



岡本茂さん(54)大和町
車両やポンプなどの器具が新しくなり、消防団員としての責任をますます感じています。



久保田育愛さん(20)中之町南
各地域の成人式実行委員と、かわわりを持たれたことで、他の地域のことを知り、身近に感じられるようになりました。



中宗隆子さん(63)久井町
周辺地域の子どもたちへ熱い思いが届く教育行政を。そして一人暮らし高齢者福祉の一層の充実を願っています。



大池聖治さん(58) 大和町

祭りムードで市民体育大会を盛り上げて！
平成15年に大和町で、「合併しても町民の絆を結束し、大きな輪を強くしよう」と、大和町民大運動会を初めて開催しました。行政主導でな



横須光江さん(63) 木原三丁目

住み慣れたまちで健康に暮らしたい
平成16年から2年間、健康づくり推進員として活動し、合併後の平成19年に、ふれあいサロン木原の立ちあげにかかりました。活動をきっかけに、健康づくりに関心を持つよ

三原を支えるそれぞれの思い

く、有志37人が集い、実行委員会組織で動きました。初めてのことで、協力や選手集めなど地域にお願いに回りましたが、反対もあり苦労しました。しかし当日は、約1,200人の町民が競技に挑み盛大に終え、爽快感と満足感がありました。
合併して市民体育大会となりましたが、地域では今一つ盛り上がりには欠けると感じています。会場の持ち回りをするなど、もっと地域住民の関心を高められるよう、祭りムードで盛り上げてほしいです。
行政に頼るのでなく、市民が市民を踊らすような取り組みが必要だと思います。

うになり、地域の人との交流も、より深まるようになりました。
合併前と同じく、私たちの関心があることは、高齢者に対する市の対策の充実です。高齢者が住みやすい地域づくりは、自分たちの力はもちろんですが、行政の力も必要だと思います。合併後、健康づくり推進員制度が全市域へ広がり、木原でも健康づくりの輪が広がっています。
私の願いは、住み慣れたまちで楽しく暮らしていくことです。そのため、地域の交流の場である、ふれあいサロン木原を盛り上げていきたいです。

三原を担う子どもたちを温かく育んでほしい
私は、9歳と6歳の娘を持つ2児の母親です。小学3年生の長女は、現在、放課後児童クラブを利用しています。
引越してきた当時、本郷町に児童クラブはありませんでしたが、保護者のニーズも高まり合併後に新設され、子育て環境は充実しました。
一人で留守番をする放課後や長期休暇に、子どもを預ける場があることは、働く親にとって、とても心強いことです。また、児童クラブでの活動を楽しそうに話す娘
広がる人と文化の輪、
残してほしい地域の個性
趣味で水彩画を描いています。合併から毎年、旧町にはなかった市美展に出品しています。絵を発表し皆さんに楽しんでもらえる機会が増えたことは、うれしいですね。また、宮浦コミュニケーションセンターで水彩画教室の講師を勤め始めて3年になります。絵だけでなく、教室の生徒さんなど、多くの人たちとの交流の輪が広がったことは、私にとってかけがえないこと。将来は、三原・久井・大和本郷すべての地域の姿を絵に収めて個展を開きたいと思っています。

の笑顔は、私の安心となり、働く意欲につながります。
今後は、放課後児童クラブでの早朝の受け入れや高学年の一時預かりなど、子育てサービスの拡大を図ってほしいです。



尾藤賢治さん(72) 久井町

一方、不安に思うことは、地域文化の衰退です。伝統ある祭りや行事は昔のような勢いがなくなっているように感じます。中心部だけではなく周辺地域ともに発展していきたいまちづくりをしてほしいです。



宇原和泉さん(37) 祐希さん(9) 本郷北三丁目

こ
ん
な
三
原
に
な
っ
て
ほ
し
い



村上基治さん(46)
大和町

人が集まるまちになってほしいです。特に市外からたくさんの人が集まると活気づくと思います。

三原市は、海拔0mから550mの高低差があるから、これを生かすバスツアーなど観光事業に力を入れれば良いと思います。

人が集まる
まちづくり

上原沙希さん(17)
沼田東町

映画館やボーリング場など若者が集える場所が欲しいです。

私は、絵を描くことが好きなので将来、デザイン関係の仕事がしたいと考えています。美術館や、作品を披露できる場所も増えればうれしいです。



若い人が
集まる
元気な町★



酒井佑大さん(12)
孝大さん(10)
寿大さん(8)
千里さん(5)
本郷南六丁目

ソフトボールやキックベースボールで遊べる広場が欲しいです。学校から帰って友だちと集まり、思い切りボール遊びがしたいです。こんな広場が近くにあれば、僕たちはもっと元気に外で遊べます。

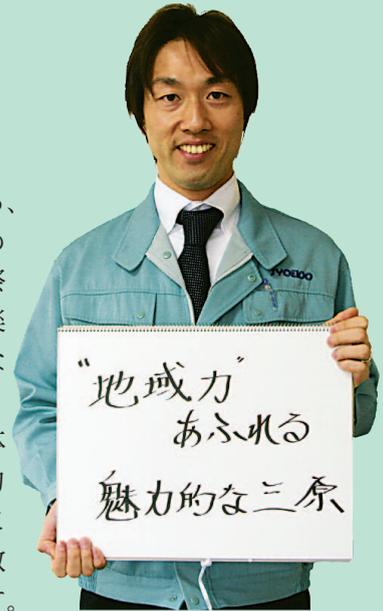
みんなが自由に遊べる広場を作ってください。

思いきり
遊ぶ
広場がほしい

倉橋英治さん(35)
久井町

市民が一体感を持てる、そんな“地域力”を求めます。例えば、やっさ祭りは、みんなが集え楽しめる、三原市にしかない魅力。

独自の魅力で市全体が一体となれる地域力あふれるまちは、全国にもPRしていける素敵なまちになると思います。



“地域力”
あふれる
魅力的な三原

取材を終えて

三原市は、「海・山・空 夢ひらくまち」をスローガンに、新市の一体感の醸成と地域の均衡ある発展のため、長期総合計画の諸施策を着実に実施してきました。

合併の効果としては、芸術文化センターポポロの建設や情報基盤整備事業など、目に見えるインフラ整備があります。また、本庁と各支所のいずれでも各種届出や住民票の発行などが可能になったことは効果としてあげられます。

しかし、役場が支所に変わり、職員が減り、市役所が遠くに感じられ、市民サービスが低下したという声は、この取材の中でも聞かれました。また、中心部に比べ周辺地域は過疎・高齢化が進み、地域の衰退も懸念されます。

合併によるメリットがある一方で、市民の皆さんからは不満や要望があることを真摯に受け止め、これからのまちづくりに反映することが必要です。そして、未来の三原市がより羽ばたくため、市民と行政が手を取り合い、意見を出し合い、ともにまちづくりの主役であることを認識し、住み良い三原市を築いていきましょう。